



## C コマンド

この章では、コマンド名が C で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

### check logflash

compactFlash メモリ カードをチェックするには、**check logflash** コマンドを使用します。

**check logflash [bad-blocks]**

シンタックスの説明	<b>bad-blocks</b> (任意) compactFlash メモリ カードの不良ブロックを検出します。				
デフォルト	なし				
コマンドモード	Any				
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(3)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(3)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(3)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは不要です。				
例	次に、compactFlash メモリ カードをチェックする例を示します。 <pre>switch# check logflash</pre>				

# checkpoint

ロールバック チェックポイントを設定するには、**checkpoint** コマンドを使用します。チェックポイント ファイルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**checkpoint** {*name*}

**no checkpoint** *name*

<b>シンタックスの説明</b>	<i>name</i>	(任意) チェックポイント ファイルの名前。63 文字以内の英数字のストリングを指定します。
------------------	-------------	--

<b>デフォルト</b>	なし
--------------	----

<b>コマンド モード</b>	Any
-----------------	-----

<b>サポートされるユーザロール</b>	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** チェックポイント ファイル名を指定せずに **checkpoint** コマンドを実行すると、**auto-x** (x は無名のチェックポイント ファイルを作成するたびに増分される 10 進数) という名前のファイルが作成されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、ロールバック チェックポイントを設定する例を示します。

```
switch# checkpoint stable
switch#
```

次に、チェックポイント ファイルを削除する例を示します。

```
switch# no checkpoint stable
switch#
```

<b>関連コマンド</b>	コマンド	説明
	<b>clear checkpoint database</b>	チェックポイント ファイルの内容を表示します。

# clear checkpoint database

データベース内のチェックポイント ファイルをすべて削除するには、**clear checkpoint database** コマンドを使用します。

**clear checkpoint database**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** Any

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、チェックポイント データベースを消去する例を示します。

```
switch# clear checkpoint database
Processing the Request... Please Wait
..... Done
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show checkpoint	チェックポイント ファイルの内容を表示します。

# clear cores

コア ファイルを消去するには、**clear cores** コマンドを使用します。

```
clear cores [archive]
```

<b>シンタックスの説明</b>	<b>archive</b> (任意) logflash ファイル システム上のコア ファイルを消去します。						
<b>デフォルト</b>	なし						
<b>コマンド モード</b>	任意のコマンドモード						
<b>サポートされるユーザ ロール</b>	ネットワーク 管理者 VDC 管理者						
<b>コマンド履歴</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(1)</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。		
リリース	変更内容						
4.0(1)	このコマンドが導入されました。						
<b>使用上のガイドライン</b>	コア ファイルに関する情報を表示するには、 <b>show system cores</b> コマンドを使用します。 このコマンドにライセンスは不要です。						
<b>例</b>	次に、コア ファイルを消去する例を示します。  switch# <b>clear cores</b>  次に、logflash ファイル システム上にあるコア ファイルを消去する例を示します。  switch# <b>clear cores archive</b>						
<b>関連コマンド</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>show system cores</b></td> <td>コア ファイル名を表示します。</td> </tr> <tr> <td><b>system cores</b></td> <td>コア ファイル名を設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	<b>show system cores</b>	コア ファイル名を表示します。	<b>system cores</b>	コア ファイル名を設定します。
コマンド	説明						
<b>show system cores</b>	コア ファイル名を表示します。						
<b>system cores</b>	コア ファイル名を設定します。						

# clear flow exporter

Flexible NetFlow フロー エクスポートの統計情報を消去するには、**clear flow exporter** コマンドを Any モードで使用します。

```
clear flow exporter {name exporter-name | exporter-name}
```

## シンタックスの説明

<b>name</b>	フロー エクスポートの名前を指定します。
<i>exporter-name</i>	既存のフロー エクスポートの名前

## コマンドのデフォルト設定

なし

## コマンド モード

Any

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**clear flow exporter** コマンドを使用するには、事前に、エクスポートを使用して Flexible NetFlow によるトラフィック モニタリングをイネーブルにしておく必要があります。

このコマンドにライセンスは不要です。

## 例

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー エクスポートの統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear flow exporter name NFC-DC-PHOENIX
switch#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear flow exporter</b>	エクスポートの統計情報を消去します。
<b>flow exporter</b>	フロー エクスポートを作成します。
<b>show flow exporter</b>	フロー エクスポートのステータスと統計情報を表示します。

# clear flow monitor

Flexible NetFlow フロー モニタ、フロー モニタ キャッシュ、またはフロー モニタ 統計情報を消去し、フロー モニタ キャッシュ内のデータを強制的にエクスポートするには、**clear flow monitor** コマンドを Any モードで使用します。

**clear flow monitor** {*name* *monitor-name* | *monitor-name*} [[*cache*] [*force-export*] | *statistics*]

## シンタックスの説明

<b>name</b>	(任意) フロー モニタの名前を指定します。
<i>monitor-name</i>	既存のフロー モニタの名前
<b>cache</b>	(任意) フロー モニタ キャッシュ情報を消去します。
<b>force-export</b>	(任意) フロー モニタ キャッシュ統計情報を強制的にエクスポートします。
<b>statistics</b>	(任意) フロー モニタの統計情報を消去します。

## コマンドのデフォルト設定

なし

## コマンドモード

Any

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**clear flow monitor** コマンドを使用するには、事前に Flexible NetFlow モニタをイネーブルにしておく必要があります。

### **clear flow monitor** *monitor-name* **cache**

このコマンドはフロー モニタ キャッシュ内のすべてのエントリを消去します。キャッシュ内のエントリはエクスポートされ、キャッシュ内に格納されていたデータは失われます。



(注)

消去されたキャッシュ エントリの統計情報は保持されます。

### **clear flow monitor** *monitor-name* **force-export**

このコマンドはフロー モニタ キャッシュからすべてのエントリを消去し、Flow Monitor に割り当てられたすべての Flow Exporter にエクスポートします。これにより、CPU の使用率が一時的に増大します。



(注)

CPU の使用率が一時的に増大するため、**clear flow monitor** *monitor-name* **force-export** コマンドは慎重に使用してください。



(注) 消去されたキャッシュ エントリの統計情報は保持されます。

#### clear flow monitor *monitor-name* statistics

このコマンドは、現在の Flow Monitor の統計情報とキャッシュ エントリを消去します。



(注) [Current entries] 統計情報はキャッシュ内のエントリ数を示すものです。このコマンドによってキャッシュは消去されないため、[Current entries] 統計情報は消去されません。

このコマンドにライセンスは不要です。

#### 例

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタの統計情報とキャッシュ エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear flow monitor name NFC-DC-PHOENIX
switch#
```

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタの統計情報とキャッシュ エントリを消去して、強制的にエクスポートする例を示します。

```
switch# clear flow monitor NFC-DC-PHOENIX force-export
switch#
```

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタのキャッシュを消去して、強制的にエクスポートする例を示します。

```
switch# clear flow monitor NFC-DC-PHOENIX cache force-export
switch#
```

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー モニタの統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear flow monitor NFC-DC-PHOENIX statistics
switch#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
clear flow monitor	フロー モニタをクリアします。
flow monitor	フロー モニタを作成します。
show flow monitor	フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

## clear logging ip access-list cache

Optimized ACL Logging (OAL; 最適化された ACL ロギング) キャッシュ内のすべてのエントリを消去し Syslog に送信するには、**clear logging ip access-list cache** コマンドを使用します。

**clear logging ip access-list cache**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** Any

**サポートされるユーザロール** スーパーユーザ  
VDC 管理者  
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、OAL キャッシュからすべてのエントリを消去し、Syslog に送信する例を示します。

```
switch# clear logging ip access-list cache
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging ip access-list	IP アクセス リストのロギング ステータスを表示します。



# clear logging logfile

ロギング ファイルからメッセージを消去するには、**clear logging logfile** コマンドを使用します。

**clear logging logfile**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** Any

**サポートされるユーザ ロール** スーパーユーザ  
VDC 管理者  
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、ロギング ファイルからメッセージを消去する例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging logfile	ローカル ログ ファイル内のログを表示します。

# clear logging nvram

Nonvolatile RAM (NVRAM) ログを消去するには、**clear logging nvram** コマンドを使用します。

**clear logging nvram**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンドモード** Any

**サポートされるユーザロール** スーパーユーザ  
VDC 管理者  
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、NVRAM ログを消去する例を示します。

```
switch# clear logging nvram
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging nvram	NVRAM ログを表示します。

# clear logging onboard

永続的なログ内の Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ロギング) エントリを消去するには、**clear logging onboard** コマンドを使用します。

```
clear logging onboard [counter-stats] [environmental-history] [error-stats] [exception-log]
                    [interrupt-stats] [module num] [obfl-log] [stack-trace]
```

## シンタックスの説明

<b>counter-stats</b>	(任意) OBFL カウンタ統計情報を消去します。
<b>environmental-history</b>	(任意) OBFL 環境履歴を消去します。
<b>error-stats</b>	(任意) OBFL エラー統計情報を消去します。
<b>exception-log</b>	(任意) OBFL 例外ログ エントリを消去します。
<b>interrupt-stats</b>	(任意) OBFL 割り込み統計情報を消去します。
<b>module num</b>	(任意) 特定のモジュールの OBFL 情報を消去します。
<b>obfl-log</b>	(任意) OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) を消去します。
<b>stack-trace</b>	(任意) OBFL スタック トレース エントリを消去します。

## コマンドのデフォルト設定

なし

## コマンドモード

Any

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(2)	<b>counter-stats</b> キーワードが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは不要です。

## 例

次に、OBFL 環境履歴エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard environmental-history
switch#
```

次に、OBFL エラー統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard error-stats
switch#
```

次に、OBFL 例外ログ エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard exception-log
switch#
```

## ■ clear logging onboard

次に、OBFL 割り込み統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard interrupt-stats
switch#
```

次に、特定のモジュールの OBFL 情報を消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard module 2
switch#
```

次に、OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard obfl-log
switch#
```

次に、OBFL スタック トレース エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard stack-trace
switch#
```

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>hw-module logging onboard</b>	エラータイプに基づいて OBFL をイネーブルにします。
<b>show logging onboard</b>	オンボード障害ログを表示します。

# clear logging session

現在のロギングセッションを消去するには、**clear logging session** コマンドを使用します。

**clear logging session**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンドモード** Any

**サポートされるユーザロール** スーパーユーザ  
VDC 管理者  
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、現在のロギングセッションを消去する例を示します。

```
switch# clear logging session
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging session	ロギングセッションステータスを表示します。

## clear ntp session

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) セッションを消去するには、**clear ntp session** コマンドを使用します。

**clear ntp session**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** 任意のコマンドモード

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
ネットワーク オペレータ  
VDC 管理者  
VDC オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、NTP セッションを消去する例を示します。

```
switch(config)# clear ntp session
```

# clear ntp statistics

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) 統計情報を消去するには、**clear ntp statistics** コマンドを使用します。

```
clear ntp statistics {all-peers | io | local | memory}
```

## シンタックスの説明

<b>all-peers</b>	すべての NTP ピアの統計情報を消去します。
<b>io</b>	IO 統計情報を消去します。
<b>local</b>	ローカル統計情報を消去します。
<b>memory</b>	メモリ統計情報を消去します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
 ネットワーク オペレータ  
 VDC 管理者  
 VDC オペレータ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは不要です。

## 例

次に、すべての NTP ピアの統計情報を消去する例を示します。

```
switch(config)# clear ntp statistics all-peers
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ntp peers</b>	NTP ピアに関する情報を表示します。

# clear nvram

Nonvolatile RAM (NVRAM) を消去するには、**clear nvram** コマンドを使用します。

**clear nvram**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** 任意のコマンドモード

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
ネットワーク オペレータ  
VDC 管理者  
VDC オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、NVRAM を消去する例を示します。

```
switch(config)# clear nvram
```



# clear platform flow ip

NetFlow ハードウェア IPv4 エントリを消去するには、**clear platform flow ip** コマンドを使用します。

```
clear platform flow ip [type] [force-export] [module mod-num]
```

シンタックスの説明	
<b>type</b>	(任意) 消去するエントリのタイプを指定します。有効な値については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
<b>force-export</b>	(任意) 消去したデータをコレクタに強制的にエクスポートするように指示します。
<b>module mod-num</b>	(任意) モジュールを指定します。モジュール番号の範囲は、使用しているシャーシによって異なります。

**コマンドのデフォルト設定** エントリのタイプを省略すると、すべてのタイプのエントリが消去されます。

**コマンド モード** Any

**サポートされるユーザーロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、消去したデータをコレクタに強制的にエクスポートするように指示する例を示します。

```
switch# clear platform flow ip forced-export
switch#
```

次に、モジュールの NetFlow 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear platform flow ip module 2
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>flow exporter</b>	フロー エクスポートを作成します。
	<b>clear flow monitor</b>	フロー モニタをクリアします。
	<b>flow monitor</b>	フロー モニタを作成します。
	<b>show flow monitor</b>	フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

# clear session state name

セッションの状態情報を消去するには、**clear session state name** コマンドを使用します。

**clear session state name** *name*

<b>シンタックスの説明</b>	<i>name</i>	セッション名。63 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
------------------	-------------	---

<b>デフォルト</b>	なし
--------------	----

<b>コマンド モード</b>	Any
-----------------	-----

<b>サポートされるユーザロール</b>	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	このコマンドにライセンスは不要です。
-------------------	--------------------

<b>例</b>	次に、コンフィギュレーションセッションの内部状態を消去する例を示します。  switch# <b>clear session state name myACLs</b>
----------	--

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show configuration session</b>	コンフィギュレーションセッションに関する情報を表示します。

# clear system reset-reason

デバイスのリセット理由履歴を消去するには、**clear system reset-reason** コマンドを使用します。

**clear system reset-reason**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** なし

**コマンドモード** 任意のコマンドモード

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、デバイスのリセット理由履歴を消去する例を示します。

```
switch# clear system reset-reason
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system reset-reason	デバイスのリセット理由履歴を表示します。

# collect counter

フローの確認されたバイト数またはパケット数を非キー フィールドとして設定し、Flexible NetFlow フロー レコードのカウンタ値（バイト数またはパケット数）を収集するには、**collect counter** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。フロー内のバイト数またはパケット数を Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect counter {bytes [long] | packets [long]}
```

```
no collect counter {bytes [long] | packets [long]}
```

## シンタックスの説明

<b>bytes</b>	フローの確認されたバイト数を非キー フィールドとして設定し、フローの合計バイト数を収集します。
<b>long</b>	(任意) 64 ビットのカウンタを使用したフロー合計バイト数の収集をイネーブルにします。
<b>packets</b>	フローの確認されたパケット数を非キー フィールドとして設定し、フローの合計パケット数を収集します。

## コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

## コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールド内の値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を取得できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

### collect counter packets

このコマンドは、フロー内パケットが確認されるたびに増分される 32 ビットのカウンタを設定します。非常に長いフローの場合は、カウンタが上限値（約 40 億パケット）に達してラップする可能性があります。ラップが起これるようなシナリオを検出すると、通常キャッシュ タイプを使用したフロー モニタは、フローをエクスポートして新しいフローを開始します。

### collect counter packets long

このコマンドは、フロー内パケットが確認されるたびに増分される 64 ビットのカウンタを設定します。64 ビットのカウンタがラップすることはまず考えられません。

このコマンドにライセンスは不要です。

## 例

次に、フローの合計バイト数を非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter bytes
```

次に、フローの合計バイト数を 64 ビット カウンタを使用した非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter bytes long
```

次に、フローの合計パケット数を非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter packets
```

次に、フローの合計パケット数を 64 ビット カウンタを使用した非キー フィールドとして収集するように設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter packets long
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>collect counter</b>	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
<b>collect flow</b>	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect interface</b>	入力および (または) 出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、値を収集します。
<b>collect ipv4</b>	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect routing</b>	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect transport</b>	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>debug flow record</b>	フロー レコードのデバッグ出力をイネーブルにします。
<b>flow record</b>	フロー レコードを作成します。
<b>match flow</b>	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match interface</b>	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
<b>match ipv4</b>	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match routing</b>	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match transport</b>	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>show flow record</b>	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

## collect flow

フロー方向および（または）フロー サンプラ ID 番号を非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてその値を収集するには、**collect flow** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。フロー方向および（または）フロー サンプラ ID 番号を Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect flow {direction | sampler}
```

```
no collect flow {direction | sampler}
```

シンタックスの説明	direction	フロー方向を非キー フィールドとして設定し、フローが監視された方向を収集します。
	sampler	フロー サンプラ ID を非キー フィールドとして設定し、フロー モニタに割り当てられたサンプラの ID を収集します。

**コマンドのデフォルト設定** このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

**コマンド モード** フロー レコード コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

### collect flow direction

このフィールドはフローの方向を示します。単一のフロー モニタが入力と出力の両フロー用に設定されている場合に最もよく使用されるフィールドで、入力と出力で 1 回ずつ、計 2 回監視されたフローを検出して排除するために使用します。

### collect flow sampler

このフィールドには、フローを監視するときに使用するフロー サンプラの ID が格納されます。異なるサンプリング レートのフロー サンプラを複数使用している場合に便利です。Flow Exporter の **option sampler-table** コマンドを使用すると、コレクタが各フローについてスケールされたカウンタを計算できるようにフロー サンプラ ID をサンプリング レートにマッピングした上で、オプションレコードをエクスポートできます。

このコマンドにライセンスは不要です。

## 例

次に、監視されたフロー方向を非キー フィールドとして収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect flow direction
```

次に、フローに割り当てられたフロー サンプラ ID を非キー フィールドとして設定し、フロー サンプラの ID を収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect flow sampler
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>collect counter</b>	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
<b>collect flow</b>	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect interface</b>	入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect ipv4</b>	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect routing</b>	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect transport</b>	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>flow record</b>	フロー レコードを作成します。
<b>match flow</b>	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match interface</b>	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
<b>match ipv4</b>	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match routing</b>	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match transport</b>	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>show flow record</b>	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

## collect interface

入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてその値を収集するには、**collect interface** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。入力および（または）出力インターフェイスを Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect interface {input | output}
```

```
no collect interface {input | output}
```

### シンタックスの説明

<b>input</b>	入力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、フローから入力インターフェイスを収集します。
<b>output</b>	出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、フローから出力インターフェイスを収集します。

### コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

### コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

### サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

### 例

次に、入力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、入力インターフェイス値を収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect interface input
```

次に、出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、出力インターフェイス値を収集する設定例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect interface output
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>collect counter</b>	カウンタを非キーフィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
<b>collect flow</b>	フロー識別フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect interface</b>	入力および（または）出力インターフェイスを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect ipv4</b>	IPv4 フィールドを非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect routing</b>	ルーティング属性を非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect timestamp</b>	タイムスタンプフィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect transport</b>	トランスポート層フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>flow record</b>	フローレコードを作成します。
<b>match flow</b>	1 つまたは複数のフローフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match interface</b>	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィックフローの方向をキーフィールドとして設定します。
<b>match ipv4</b>	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match routing</b>	1 つまたは複数のルーティングフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match timestamp</b>	タイムスタンプフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match transport</b>	1 つまたは複数のトランスポートフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>show flow record</b>	フローレコードのステータスと統計情報を表示します。

## collect routing

ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてそのフィールド値を収集するには、**collect routing** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。ルーティング属性を Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect routing {{destination | source} as [peer] | traffic-index | forwarding-status | next-hop address
  ipv4 [bgp]}
```

```
no collect routing {{destination | source} as [peer] | traffic-index | forwarding-status | next-hop address
  ipv4 [bgp]}
```

### シンタックスの説明

<i>destination</i>	1 つまたは複数の宛先ルーティング属性フィールドを非キー フィールドとして設定し、フローからそれらの値を収集します。
<i>source</i>	1 つまたは複数の送信元ルーティング属性フィールドを非キー フィールドとして設定し、フローからそれらの値を収集します。
<i>as</i>	宛先 AS フィールドを非キー フィールドとして設定し、フローから AS フィールドの値を収集します。
<i>peer</i>	(任意) ピア ネットワークの宛先 AS 番号を非キー フィールドとして設定し、フローからピア ネットワークの AS 番号の値を収集します。
<i>traffic-index</i>	BGP 送信元または宛先トラフィック インデックスを非キー フィールドとして設定し、フローから BGP 宛先トラフィック インデックスの値を収集します。
<i>forwarding-status</i>	フォワーディング ステータスを非キー フィールドとして設定し、フローからパケットのフォワーディング ステータスの値を収集します。
<i>next-hop address ipv4</i>	ネクストホップ値を非キー フィールドとして設定し、フローからネクストホップ情報を収集します。
<i>bgp</i>	(任意) ネクストホップ BGP ネットワークの IP アドレスを非キー フィールドとして設定し、フローからネクストホップ BGP ネットワークの IP アドレス値を収集します。

### コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

### コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

### サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**

**collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

**collect routing source as [peer]**

送信元 IP アドレスを使用してルータのルーティング テーブルを検索し、その結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を収集します。オプションの *peer* キーワードを指定すると、送信元ネットワークではなく、その次のネットワークが提供されます。

**(注)**

これは、このルータからパケットが逆向きにルーティングされる方法に基づいており、非対称経路では正しい結果が得られないことがあります。

**collect routing destination as [peer]**

宛先 IP アドレスを使用してルータのルーティング テーブルを検索し、その結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を収集します。オプションの *peer* キーワードを指定すると、宛先ネットワークではなく、その次のネットワークが提供されます。

**collect routing source traffic-index**

このフローの送信元 AS に基づいてトラフィック インデックス フィールドを収集します。トラフィック インデックス フィールドは、BGP によって伝播される値です。

**collect routing forwarding-status**

パケットが正常に転送されたかどうかを示すフィールドを収集します。このフィールドは 2 つの部分で構成され、最大長は 4 バイトです。現時点では、ステータス フィールドだけが使用されます。

```

+--+--+--+--+--+--+--+
| S | Reason |
| t | codes  |
| a | or     |
| t | flags  |
| u |        |
| s |        |
+--+--+--+--+--+--+--+
0 1 2 3 4 5 6 7

```

Status:

00b=Unknown, 01b = Forwarded, 10b = Dropped, 11b = Consumed

このコマンドにライセンスは不要です。

**例**

次に、送信元 IP アドレスを非キー フィールドとしてルータのルーティング テーブルを検索した結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を設定し、その 16 ビット AS 番号を収集する例を示します。

```

switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing source as

```

次に、宛先 IP アドレスを非キー フィールドとしてルータのルーティング テーブルを検索した結果に基づいて 16 ビットの AS 番号を設定し、その 16 ビット AS 番号を収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing destination as
```

非キー フィールドとしてのフローの送信元 AS に基づいてトラフィック インデックス フィールドに値を設定し、その値をトラフィック インデックス フィールド値として収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing source traffic-index
```

次に、フォワーディング ステートを非キー フィールドとして設定し、そのフォワーディング ステート値を収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect routing forwarding-status
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>collect counter</b>	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
<b>collect flow</b>	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect interface</b>	入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect ipv4</b>	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect routing</b>	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect transport</b>	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>flow record</b>	フロー レコードを作成します。
<b>match flow</b>	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match interface</b>	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
<b>match ipv4</b>	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match routing</b>	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match transport</b>	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>show flow record</b>	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

## collect timestamp sys-uptime

TIMESTAMP SYS-UPTIME フィールドを非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてそのフィールド値を収集するには、**collect timestamp sys-uptime** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。TIMESTAMP SYS-UPTIME フィールドを Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

```
no collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

### シンタックスの説明

<i>first</i>	フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを非キー フィールドとして設定し、フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づいてタイムスタンプを収集します。
<i>last</i>	フローの最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを非キー フィールドとして設定し、フローの一番最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づいてタイムスタンプを収集します。

### コマンドのデフォルト設定

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

### コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

### サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

### 例

次に、フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づくタイムスタンプを非キー フィールドとして設定し、フローの最初のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime first
```

次に、フローの最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムに基づくタイムスタンプを非キー フィールドとして設定し、フローの一番最後のパケットが確認されたときのシステム アップタイムを収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime last
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>collect counter</b>	カウンタを非キーフィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
<b>collect flow</b>	フロー識別フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect interface</b>	入力および（または）出力インターフェイスを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect ipv4</b>	IPv4 フィールドを非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect routing</b>	ルーティング属性を非キーフィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
<b>collect timestamp</b>	タイムスタンプフィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect transport</b>	トランスポート層フィールドを非キーフィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>flow record</b>	フローレコードを作成します。
<b>match flow</b>	1 つまたは複数のフローフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match interface</b>	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィックフローの方向をキーフィールドとして設定します。
<b>match ipv4</b>	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match routing</b>	1 つまたは複数のルーティングフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match timestamp</b>	タイムスタンプフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>match transport</b>	1 つまたは複数のトランスポートフィールドをキーフィールドとして設定します。
<b>show flow record</b>	フローレコードのステータスと統計情報を表示します。

# collect transport tcp flags

TCP フィールドを非キー フィールドとして設定し、任意の Flexible NetFlow フロー レコードについてそのフィールド値を収集するには、**collect transport tcp flags** コマンドを Flexible NetFlow フロー レコード コンフィギュレーション モードで使用します。TCP フィールドを Flexible NetFlow フロー レコードの非キー フィールドとして使用する設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**collect transport tcp flags**

**no collect transport tcp flags**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

**コマンドモード** フロー レコード コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **collect** で始まる Flexible NetFlow コマンドは、フロー モニタ レコードの非キー フィールドを設定し、そのレコードによって作成されたフローの各フィールドに値を取り込むために使用します。非キー フィールドの値をフローに追加することで、フロー内トラフィックに関する追加情報を提供できます。非キー フィールドの値が変化しても新しいフローは作成されません。ほとんどの場合、非キー フィールドの値はフロー内の最初のパケットからのみ取り出されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、TCP フラグを非キー フィールドとして設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect transport tcp flags
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>collect counter</b>	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタ値を収集します。
	<b>collect flow</b>	フロー識別フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
	<b>collect interface</b>	入力および（または）出力インターフェイスを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
	<b>collect ipv4</b>	IPv4 フィールドを非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。
	<b>collect routing</b>	ルーティング属性を非キー フィールドとして設定し、そのフィールド値を収集します。

コマンド	説明
<b>collect timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>collect transport</b>	トランスポート層フィールドを非キー フィールドとして設定し、その値を収集します。
<b>flow record</b>	フロー レコードを作成します。
<b>match flow</b>	1 つまたは複数のフロー フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match interface</b>	インターフェイス (interface フィールド) に対するトラフィック フローの方向をキー フィールドとして設定します。
<b>match ipv4</b>	1 つまたは複数の IPv4 フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match routing</b>	1 つまたは複数のルーティング フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match timestamp</b>	タイムスタンプ フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>match transport</b>	1 つまたは複数のトランスポート フィールドをキー フィールドとして設定します。
<b>show flow record</b>	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。



# commit

コンフィギュレーションセッション内のコマンドを適用するには、**commit** コマンドを使用します。

<b>シンタックスの説明</b>	<b>verbose</b>	(任意) 現在のコンフィギュレーション セッションをコミットして、結果の詳細を表示します。
------------------	----------------	---

**デフォルト** なし

**コマンドモード** セッション コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 現在のコンフィギュレーションセッションをデバイスに適用するには、**commit** コマンドを使用します。コマンドをコミットせずにセッション コンフィギュレーション モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。コマンドをコミットせずに現在のセッションを削除するには、**abort** コマンドを使用します。

このコマンドにライセンスは不要です。

**例** 次に、セッションをコミットする例を示します。

```
switch# configure session myACLs
switch(config-s)# commit
switch#
```

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>abort</b>	セッションを削除し、セッション コンフィギュレーション モードを終了します。
	<b>exit</b>	コマンドをコミットせずにセッション コンフィギュレーション モードを終了します。

# configure session

コンフィギュレーション セッションを作成または変更するには、**configure session** コマンドを使用します。

**configure session** *name*

<b>シンタックスの説明</b>	<i>name</i>	セッション名。63 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
------------------	-------------	---

<b>デフォルト</b>	なし
--------------	----

<b>コマンド モード</b>	Any
-----------------	-----

<b>サポートされるユーザロール</b>	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	このコマンドにライセンスは不要です。
-------------------	--------------------

<b>例</b>	次に、コンフィギュレーションセッションを作成する例を示します。
----------	---------------------------------

```
switch# configure session myACLs
switch(config-s)#
```

<b>関連コマンド</b>	コマンド	説明
	<b>show configuration session</b>	コンフィギュレーションセッションに関する情報を表示します。